

平成 25 年度 東京都内湾水生生物調査 2 月成魚調査 速報

●実施状況

調査は 2 月 13 日におこなった。当日は大潮で、満潮時刻は 16 時 08 分、干潮時刻は 10 時 25 分であった。調査時間帯の波高は 0.1 未満～0.4m/s で静穏だった。当日の下層水の溶存酸素 (DO) は、測定値で 8.8～9.3mg/L と高かった。

調査の結果、各地点の魚類の確認数は最も多かった St. 35 で 50 個体以上と多く、昨年 11 月のように魚類の確認されない調査地点はなかった。魚類は、St. 10 にてアカエイの当歳魚が 30 個体も採捕された。また、St. 35 において、ハタタテヌメリをはじめ、多くの水生動物が採捕された。アカシタビラメの幼魚がはじめて 1 個体確認された他、殻長 6cm 程度のタイラギが多く確認された。成魚調査時の各地点の概況を下表に示す。

調査地点	St. 10		St. 22		St. 25		St. 35	
調査時間帯	14:10～14:42		12:40～13:22		11:25～12:02		9:50～10:35	
水深 (m)	8.2		14.2		15.8		25.2	
天候	曇		曇		曇		曇	
気温	5.2		5.9		6.6		5.4	
風向/風速 (m/s)	ENE/2.0		E/2.5		NE/2.5		N/1.1	
波浪 (m)	<0.1		0.1		0.1		0.4	
水色	暗緑色		暗緑色		暗灰黄緑色		暗緑色	
透明度 (m)	3.3		3.6		2.8		5.5	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温 (°C)	8.9	9.1	8.9	9.8	8.8	10.5	8.5	9.9
塩分	31.5	32.2	31.7	32.7	30.7	33.0	33.2	32.9
pH	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.3	8.3
DO (mg/L)	9.1	8.8	9.0	9.3	9.0	8.9	9.1	10.0
臭気	カビ臭(中)	無し	カビ臭(微)	無し	無し	無し	無し	無し
備考								

観測層：上層 (0m)・下層 (海底面-1m)、潮汐時刻：東京都港湾局のデータ

●主な出現種等(速報なので、種名等は未確定です)

主な出現種等	St. 10	St. 22	St. 25	St. 35
魚種 (多い順 ^注)	アカエイ (c)	ハタタテヌメリ (+)	アカエイ (r)	ハタタテヌメリ (G)
		テンジクダイ (r)	ハタタテヌメリ (r)	テンジクダイ (G)
				アカシタビラメ (1)
魚類以外	イッカククモガニ (r)	イッカククモガニ (+)	トリガイ (G)	シャコ (G)
	イシガニ (r)	シャコ (r)	クモヒトデ類 (G)	タイラギ (G)
備考	アカエイは体盤長約 14～19cm の昨年生まれたと推定される個体だった。			魚類も含めた、出現生物種数は 4 地点の中で最も多かった。

注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

St.10

調査地点位置

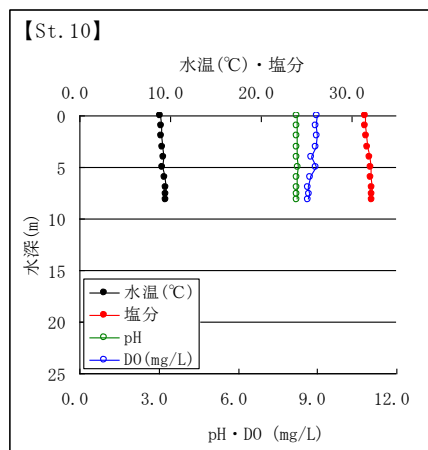


採取試料



アカエイの当歳魚が約30個体採捕された。

水質の状況



注) グラフデータは計測値



確認生物

アカエイ



沿岸の砂泥底に生息するエイで、東京湾奥部に非常に多く、大型に成長する。尾部に毒針を持ち、刺されると非常に痛い。今回当歳魚が多量に捕獲されたことから、今年の夏の大量繁殖が予測される。

イッカククモガニ



北米大陸西部沿岸原産の外来種。内湾の砂泥底に生息するカニで、東京湾奥部に多く生息する。貧酸素に比較的強く、通年で繁殖するため、優占種となることが多い。

St. 22

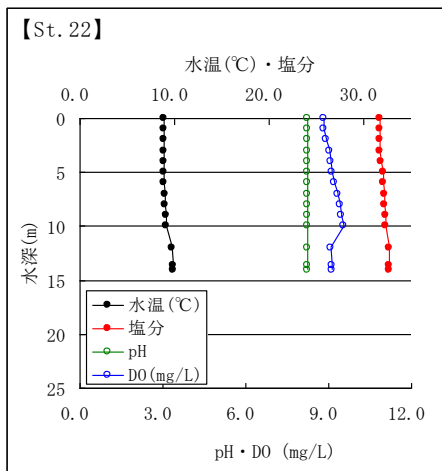
調査地点位置



採取試料



水質の状況



注) グラフデータは計測値



確認生物

ハタタテヌメリ



東京内湾の砂泥底に生息する。名前の通り体表面に粘液を多く分泌する。今回 St. 10 を除く地点で確認された。特に St. 35 では 30 個体と多く確認された。

テンジクダイ



東京湾の砂泥底に多く生息するが、内湾奥部には少ない。約 8cm までしか成長しない小型魚で、親魚が卵を口の中にくわえて、孵化するまで保護する習性を持つ。本調査地点以外では St. 35 で約 20 個体確認された。

St. 25

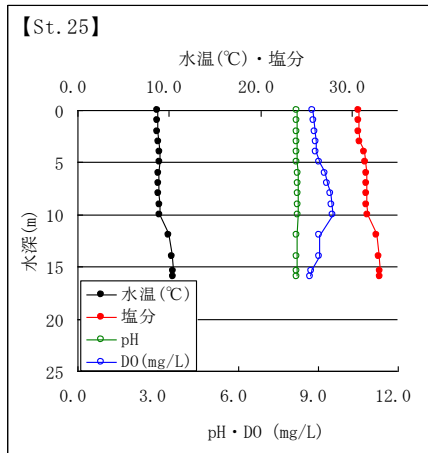
調査地点位置



採取試料



水質の状況



注) グラフデータは計測値



確認生物

トリガイ



東京湾の砂泥底に生息する二枚貝で、水産上有用種。湾奥部では夏季に貧酸素により斃死してしまい、貝殻のみ確認される。今回本調査地点で多量に採捕された。

底質環境が改善されたためと推定される。

シャコ



かつて東京湾内湾域の砂泥底に多く生息していた。近年激減し、姿を消していた。しかし、最近夏季以外は、継続して確認されている。今回は St. 10 を除く 3 地点で採捕された。

St. 35

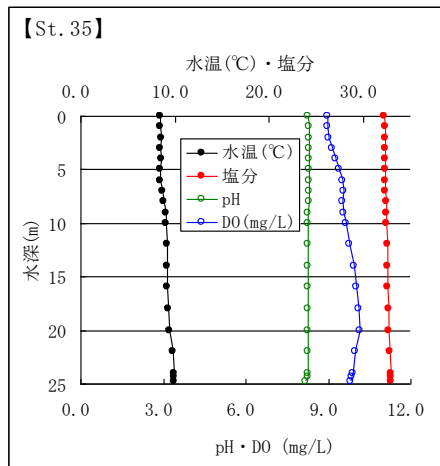
調査地点位置



作業状況



水質の状況



注) グラフデータは計測値

採取試料



※今回 St.35 では最も多くの種が採捕された。

確認生物

アカシタビラメ



水産上有用種であるが、東京湾奥部の砂泥底では、ほとんど確認されない。過去の採捕記録では、昭和 61 年に内湾成魚調査が開始されてから、まったく確認されておらず、今回がはじめての確認記録となった。

タイラギ



東京湾の砂泥底に生息する二枚貝で、前記のトリガイと同じく、湾奥部では夏季に貧酸素により斃死してしまい、貝殻のみ確認される。しかし、今回は貝殻だけではなく、約 6cm の生きた貝が 10 個体以上と多く確認された。